

上田市 生け垣補助制度のご案内



上田市 都市計画課 公園緑化景観担当
(TEL) 0268-23-5127

生け垣推進事業の補助金制度について

生け垣は、持ち主の方が緑を楽しむだけでなく、道行く人々の心を和ませ、潤いのある美しいまちづくりにつながります。上田市では、一定の条件を満たしている生け垣の設置に必要な費用の一部を補助しています。

1 補助対象について

- (1) 上田市内に居住する方が、住宅敷地の周囲に新たに生け垣を設置する場合。
- (2) 上田市内に居住する方が、市内に事業所、店舗、貸家等を所有し、その敷地の周囲に新たに生け垣を設置する場合。

● 以下の条件を全て満たしていること

- (1) 通り抜けの出来る公道に面し、**連続して5m以上**にわたり設置すること。
- (2) 4m未滿の道路に面している場合は、道路中央から2m以上後退して設置すること。
(※丸子地域の都市計画区域外と真田地域・武石地域は後退する必要はありません。)
- (3) 樹木の高さは1m～1.5m程度で、植える間隔は1mあたり3本程度とする。ただし、枝張りが大きい場合はもっと間隔が広くても良い(交差点は見通しが悪くならない高さとする)。
- (4) 樹種は地域の景観形成(沿道の緑化)に寄与し、上田地域に適するものとする。
(5 ページ参照)
- (5) 赤星病防止のため、タマイブキ、カイヅカイブキ等のビャクシン類は植えない。
- (6) 設置した生け垣は適正な管理に努め、5年間は撤去をしないこと。

● 下記のいずれかに該当する場合は、上記の条件を全て満たしていても補助対象になりません。

- (1) 公共事業により生け垣分も含めて補償を受けている場合。
- (2) 販売を目的とする住宅等の用地に設置する場合。
- (3) 開発事業届出の対象となる敷地に設置する場合。
- (4) 建築物のない土地(駐車場、資材置場、太陽光発電施設等)に生け垣を設置する場合。
- (5) 道路と生け垣を設置する場所とに段差(高低差)があり、道行く人に生け垣設置の効果が少ない場合。
- (6) 生け垣の道路側にブロック塀やフェンス等を設置する場合(土留め等のための50cm程度までの積ブロックなどは除く)。
- (7) 市税等に滞納がある場合。

2 補助金額

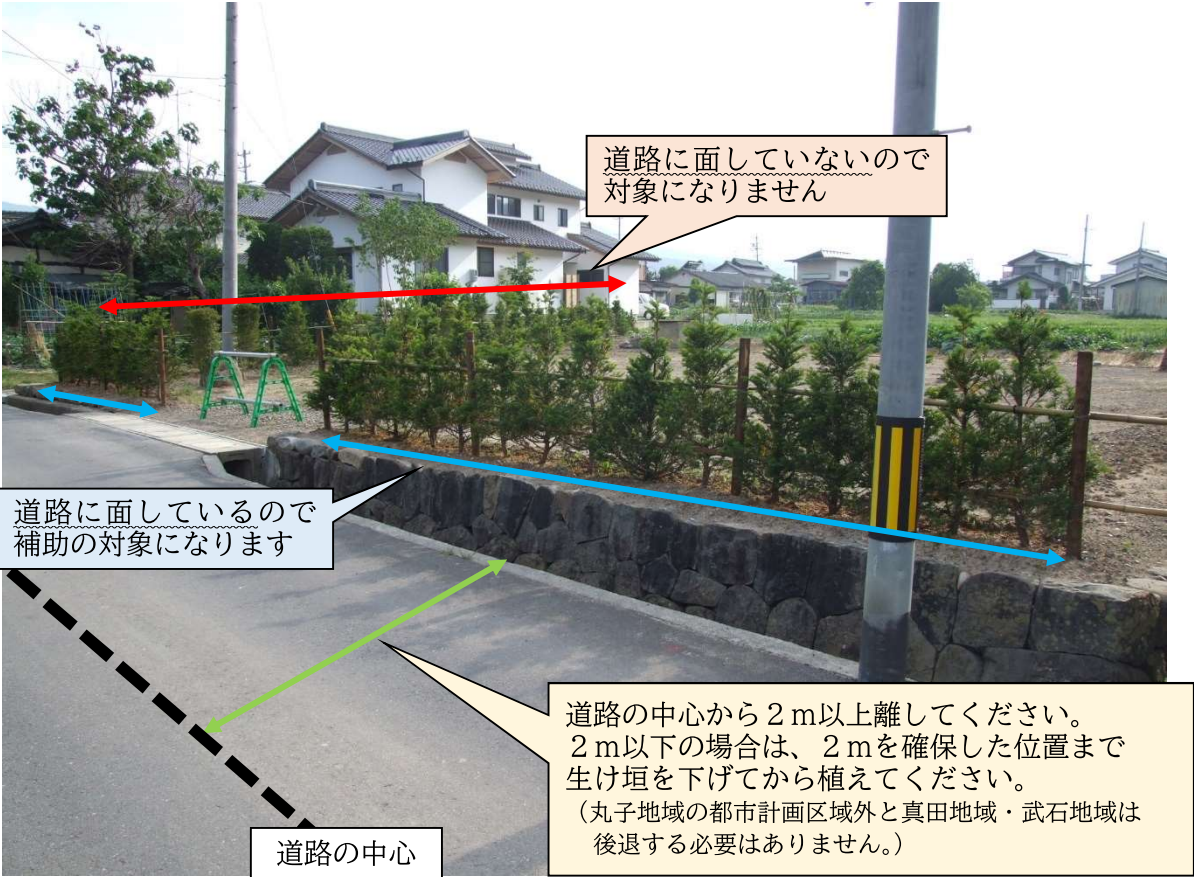
- (1) 更地の状態から、生け垣の設置に要する**費用の2分の1以内**。ただし、**5万円を限度**とする。
- (2) 既設のブロック塀等を解体して生け垣を設置する場合、解体に要する費用の2分の1以内。ただし、5万円を限度とする。

※ 補助は生垣設置に5万円、ブロック塀等の解体に5万円。最大10万円まで。

3 その他注意事項

- (1) 必ず着工前に都市計画課 公園緑化景観担当へご相談ください。
- (2) 同一敷地に対する補助は1回限りです。
- (3) 申請書には見積書と着工前の現況写真を添付してください。
- (4) 一本植えの高木や道路に面していない部分は補助対象となりません。
- (5) 簡易な仕切り塀や古い生け垣を除去して新たに生け垣を設置する場合、更地にするまでの除去費用は補助対象となりません。
- (6) 既設のブロック塀等の解体のみでは補助対象となりません。
- (7) 設置工事は、申請後に市からの電話連絡あるいは交付決定通知が届いてから行ってください。
- (8) 生垣設置費用が適正かどうか市で照査しますので、費用のすべてが補助対象とならない場合があります。

生け垣の助成対象のイメージ



補助の対象になる例



水路を挟んで道に面している場合



段差はあるが1m程度であり、生け垣が道路から十分に見える場合

補助の対象にならない例



道路側に塀やフェンスを設置する場合



道路から生け垣までの段差が大きく、見上げないとよく見えない場合

○上田地域に適する代表的な樹種の例

上田地域は全国的にも雨量が少なく乾燥地帯で、しかも年間の寒暖の差が大きい地域ですので、これらに適する樹種を選ぶことが大切です。また、敷地内での形態や周辺の景観にも配慮した上で樹種を決めてください。

下の一覧表に上田地域に適する代表的な樹種を示しましたので参考にしてください。

なお「ビャクシン類」以外の樹種で、上田地域での生育に適しているものであれば下記の樹種以外でも補助の対象になります。

名称	種類	特徴
ベニカナメモチ (レッドロビン)	常緑広葉樹	春の若葉が紅色を帯びることからこの名があるが、最近では洋種のレッドロビンが出回り人気も高い。5～6月頃白く小さな花が多数咲き、秋には直径5mmぐらいの実が赤く熟す。
トキワマンサク	常緑広葉樹	生長が比較的遅いので、年1回刈り込めばきれいな樹形を保つことができる。春の開花期には枝先に集まるように咲くため株全体が花に覆われる。白花の基本種に加え、紅花の園芸種も人気がある。
キンメツゲ	常緑広葉樹	古くから生け垣として親しまれているイヌツゲの園芸品種。葉が小さく密集して育つ。和風の家によく合う。
ネズミモチ	常緑広葉樹	山地に生えるが、よく栽培される常緑低木で2～3mになる。葉は革質で光沢がある。初夏に円錐花状の白い花をつけ、果実は7～10mmの楕円形で黒紫色に熟す。
ヒイラギ	常緑広葉樹	本州関東以西に分布していて、この辺りでは自生せず栽培種のみ。葉の緑に鋭いとげ状のきょ歯があることから魔除けとして玄関先などに植えられることが多い。よく分枝し葉も多いため生け垣にも向いている。
ピラカンサ	常緑広葉樹	元々は西アジアの原産で明治中期に渡来した。和名はトキワサンザシ。5～6月頃に短い枝の先に白い花を多数つけ果実は10月頃に鮮紅色に熟する。近似種として果実が橙黄のタチバナモドキがある。
イチイ	常緑針葉樹	古くから生け垣や庭木として親しまれている。日本各地の低山地に育ち、針葉樹としては一番刈り込みに強く色々な樹形を楽しめるが、乾燥や葉ダニに弱い点を注意しなければならない。
コノテガシワ	常緑針葉樹	中国原産で、葉はヒノキに似ており、表裏の区別なく平面で横にして立つ。葉が黄色味を帯びたオウゴンコノテなどもある。
アベリア	半落葉低木	中国原産で大正末期に渡来し広く植えられている。高さ1～2mになりよく分枝して茂る。花期は5～11月と長く、枝先にやや淡紅色を帯びた白い小花をつける。刈込みに強いので色々な樹形に整枝できる。
ドウダンツツジ	落葉広葉樹	山地の主に蛇紋岩地などに自生し、春先に白い花が下垂して開く。花も紅葉も美しいが、乾燥に弱いので水枯れに注意が必要。
ニシキギ	落葉広葉樹	山野に普通に生え、秋の紅葉の美しさから錦に例えた和名「錦木」がついた。枝にコルク質の翼が発達するのが特徴で、非常に丈夫で刈り込みにも耐える。葉の落ちた卵形の橙赤色の実が、風に揺れている風情が好まれている。
ユキヤナギ	落葉広葉樹	川岸の岩場などに生え、茎が弓状に曲がり、白い小さな花が雪を覆ったように咲くことから「雪柳」と呼ばれる。小葉で刈り込みに強いので目隠しによい。